

理事長挨拶

信州大学医学部衛生学公衆衛生学講座 野見山 哲生

信州公衆衛生学会は、平成 17 年（2005 年）から準備委員会が発足し、平成 18 年（2006 年）8 月に第 1 回の総会をもって正式に発足致しました。発足から 6 年の長きに渡り理事長をつとめられた佐々木隆一郎先生に代わり、この度理事会において信州大学医学部の野見山が第 2 代理事長（平成 24 年度～）に選出されました。初代理事長の佐々木隆一郎先生が、育み、慈しんできた本学会を、更に発展させることができるよう、会員諸氏のお力もお借りして頑張っって参りたいと思います。どうか宜しくお願い申し上げます。

さて、長野県の平均余命は平成 17 年の都道府県別生命表によると、男性は 79.84 歳で全国 1 位、女性は 86.48 歳で全国 5 位、と全国屈指の健康長寿県です。また、平成 22 年の年齢調整死亡率は男性、女性共に最も低く、更に、医療費適正化計画策定の目標となった平成 18 年の平均在院日数 26.7 日は本邦で最も短く、一人あたりの県民医療費は 25.7 万円で 38 位、老人医療費は 72.2 万円で 45 位です。以上のように、保健福祉における統計の結果では大変優良な結果を残しています。しかし、がんや心疾患による年齢調整死亡率が低いこと、更には健康長寿やその他の優良な結果をもたらした原因の解明が十分進んでいないことも事実であり、又、これらの指標は、ここ数年で悪化、後退しているとも言われており、事実（Evidence）の探索が今後の課題になってきています。Evidence 探索の為には十分検討された疫学研究が不可欠であり、そういった疫学研究の発展が重要であることは言うまでもありません。一方で、日々行われている公衆衛生活動の検証を丁寧に行い、そこから問題点を抽出し、新たな公衆衛生活動に応用し、また検証を行う、というサイクルが地域に於いて重要であり、その検証した結果こそが疫学研究であり、Evidence です。本学会では日頃行っている公衆衛生活動の成果を Evidence として残せるよう、また、活動を更に向上させるため、総会による発表や学会誌への論文掲載を活動の主として活動しています。一人でも多くの皆様が、学会発表、論文執筆して頂き、その結果を地域の公衆衛生活動にフィードバックして頂けたら幸いです。理事会、編集委員会のメンバーを始めとしたサポーターが、学会発表、論文執筆にアドバイスができるだけでなく、地域に於ける公衆衛生活動そのものに対してサポートして参りたいと思いますので、何かあれば周りにいる理事、編集委員にお声がけください。

健康長寿県長野から、数多くの Evidence を全国に向けて発信できるよう、会員の皆様と一緒に頑張っって参りたいと思います。改めて宜しくお願い申し上げます。